

歴史と文化の里

本 沢



本沢地区振興協議会

城山全景 (山形市広報課提供)

城山山頂 長谷堂城址碑



出羽の関ヶ原・長谷堂合戦

慶長5年(1600年)9月、徳川派の最上義光の山形城を落とすべく、豊臣派の上杉軍が直江兼統を総大将に2万5千名と、庄内からの援軍を加えると僅に3万名以上の大軍が攻めて来た。13日には畑谷城を攻め落とし、14日には長谷堂城の北西1kmばかりの菅沢山に本陣を構え、長谷堂城を包囲した。

守るは、長谷堂城兵僅か1千名とはいえ、大将は最上軍切つての知将・志村伊豆守光安で、城兵は士気に溢れ、知略に長けていた。しかも堅城で、度重なる上杉軍の猛攻に対し、知将志村軍の駆け引きは誠に見事で、半月・15日間もの間、上杉軍を翻弄し続けた。その間、上杉軍の剣豪・上泉主水泰綱をはじめ、名立たる武将達が討死さ

せられ、上杉軍の犠牲は甚大であった。最上軍にも多くの犠牲者が出、伊達政宗の生母義姫の護衛役・加藤掃部左衛門清次もその一人である。

9月29日夜、「関ヶ原で豊臣方が負けた」の報が直江兼統に届き、一刻も早く会津へ戻り、善後策を立てるべく、10月1日上杉軍は一斉に撤退を開始した。最上軍・伊達軍はここぞとばかり追撃したが大激戦となり、最上軍総大将の最上義光も兜に銃弾を受けた。伊達軍の湯目加賀守重旧もこの戦いで戦死した。長谷堂合戦での戦死者は両軍合わせて2,300名を優に超えると言われている。

大軍を相手に勇敢に奮闘し、父祖の地を守り抜いた長谷堂城兵の意気は、我々本沢人の魂に脈々と受け継がれている。

主水塚



掃部の碑



湯の目の碑



八幡崎供養塔



長谷堂城と志村伊豆守の出陣



「長谷堂合戦図屏風・右隻(秋田県・齊藤茂美氏所蔵)」より 写真提供:最上義光歴史館

長谷堂合戦図屏風



本沢地区周辺地図

長谷堂城跡



歌碑 農民歌人・結城哀草果の代表作(赤禿峠)



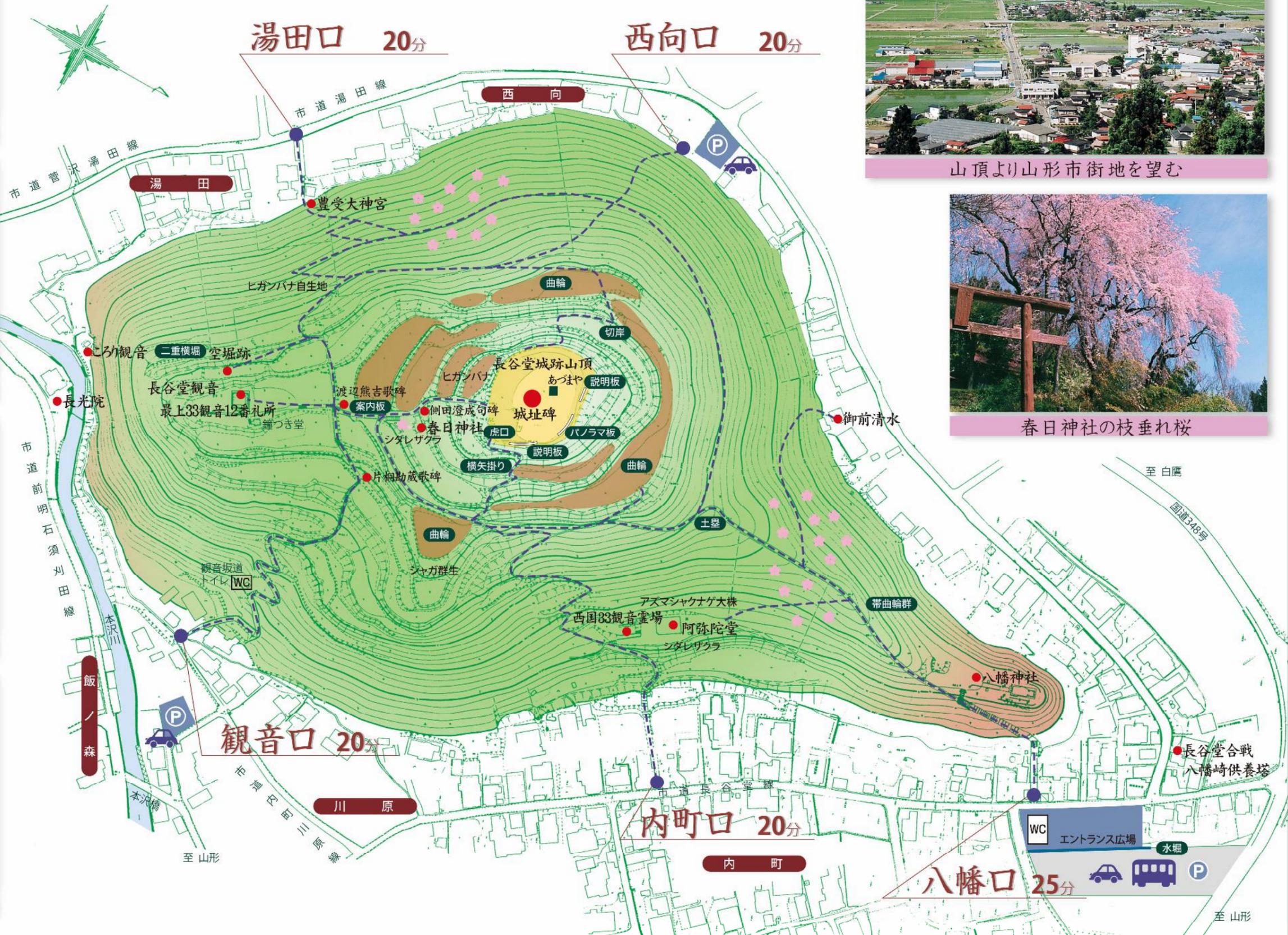
清源寺・朱塗の仁王門



八幡様



最上33観音12番礼所



山頂より山形市街地を望む



春日神社の枝垂れ桜

至 白鷹

国道348号

長谷堂合戦
八幡崎供養塔

至 山形